

平成23年度 鹿児島大学歯学部公開講座報告

宮脇 正一

鹿児島大学大学院医学総合研究科
健康科学専攻 発生発達成育学講座
歯科矯正学分野

講座名：最近の歯科医療－審美性の回復と全身との関わり－

場所：大島郡医師会館 4階ホール

開催日時：平成23年11月26日(土) 15:00-18:45

主催：鹿児島大学歯学部

講座の開設主旨・開催目的

鹿児島大学歯学部は、地域の歯科医療従事者らとの情報交換と緊密な連携を目的に、昭和54年度より様々なテーマで公開講座を開催してきた。本年度は、鹿児島県大島郡歯科医師会のご協力により、「最近の歯科医療 - 審美性の回復と全身との関わり - 」というテーマで奄美市大島郡医師会館にて開催することになった。歯科医療は、審美性の改善と顎口腔機能の向上、ひいては心理面の改善といった多岐にわたる患者のQOLの向上という、国民生活の中で重要な役割を担っており、その重要性は衰えるどころか日々、高まってきている。最近の研究によると、審美性回復のための様々な治療法の有用性が検討されてきており、例えば、接着ブリッジによる補綴治療や外科的矯正治療の術式はほぼ確立され、以前と比べてより安全かつ安心の歯科医療の提供が可能となった。さらに、これまで未解明の口腔と全身との関わり、例えば、歯周病と糖尿病との密接な関係やブラキシズムと胃食道逆流との意外な関連性も次第に明らかになってきた。従って、私共歯科医療関係者が、このような事実を国民に理解してもらうために、私共から積極的に情報を発信する努力も必要となってきている。

そこで、本公開講座では、基礎と臨床のそれぞれの立場から、最新の歯科医療やその意義について、顔に関する基礎的なことを含めた審美性の回復や全身との関わりについて、基礎的なデータや最新の知見を提示して、奄美大島の歯科医療関係者の今後の医療活動に役立ててもらうことを目的に開催された。

受講対象者：歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士他

募集人員：30人

プログラム：

司会・進行（世話人：宮脇 正一）

- | | | |
|------------------------------|------------|----------|
| 1. 開講式：開講の辞 | 歯学部長 | 杉原 一正 教授 |
| 2. 顔と表情の科学 | 人体構造解剖学分野 | 島田 和幸 教授 |
| 3. MIによる口腔機能回復 - 接着ブリッジの最新臨床 | 咬合機能補綴学分野 | 田中 卓男 教授 |
| 4. 歯周病と全身疾患との関係 | 歯周病学分野 | 野口 和行 教授 |
| 5. 歯科矯正治療の重要性と歯ぎしり | 歯科矯正学分野 | 宮脇 正一 教授 |
| 6. 顎変形症に対する外科的矯正治療（矯正歯科） | 歯科矯正学分野 | 前田 綾 助教 |
| 7. 顎変形症に対する外科的矯正治療（口腔外科） | 顎顔面疾患制御学分野 | 杉原 一正 教授 |
| 8. 修了証書授与 | 歯学部長 | 杉原 一正 教授 |
| 9. 閉講式：閉講の辞 | 副研究科長 | 宮脇 正一 教授 |

公開講座報告：

本年度の鹿児島大学歯学部公開講座は、平成23年11月26日(土)に大島郡歯科医師会会長の林文仁先生(図1中央)をはじめ会員の先生方やスタッフ合わせて計32名の方々の出席を得て、大島郡医師会館(図2矢印)にて開催された。事前登録を行っていたが、当日参加の方も少なくなく、結果として会場内はほぼ満席の状態だった。講演は3時間以上という長時間に及んだにもかかわらず、一人の退席者もなく最後まで熱心に聴いて頂けた。事後アンケートでは、もっと長い時間講演を聴きたかった、とても良いお話が聴けて大変良かった、毎年開催して欲しい、もっと詳しいお話が聴きたいなど、今回の公開講座に対する評価が高かったことに加え、受講生の方々のモチベーションが極めて高かったことが印象的だった(図3)。

公開講座は筆者が司会を務め、歯学部長の杉原教授が開講の辞を述べて、開講となった(図4)。その後、島田教授が、ヒトの顔の構成と形、表情、顔の加齢変化、顔の地域性、顔を若く保つ方法等について、とても分かりやすく解説し、さらに、表情筋や感情表現や顔の加齢に伴う変化を予防する為の方法という、受講



図1



図5



図6

者らが翌日の診療室でも話題にできるような興味深い内容について、解剖学的な視点から詳細な説明があった(図5)。

次に、田中教授が、MI (Minimal Intervention : 最小の侵襲の意) の概念を活かして口腔機能回復を行なうための接着ブリッジの最新臨床について、長期観察症例から得られた結論をお話になるとともに、巨大カラフトマスの写真等も織り交ぜた講演が行なわれ、会場はとても和やかな雰囲気包まれた(図6)。加えて、接着システムやレジンセメントに関する日常臨床に即役

立つ資料も配付されたため、受講生は極めて高い評価を与えていたようだった。

その後、野口教授が歯周病と全身疾患との関連性について講演し、特に、成人病の中でも話題に上がることの多い糖尿病との関連性について、極めて詳細に解



図2



図3



図4



図7

説された。大島と言う特殊な環境のため、全身疾患を伴った患者さんも自分たちの診療室で管理されているレベルの高い受講生が多かったためか、長時間の講演にも関わらず会場は熱気につつまれ、最後の質疑応答では、白熱した討議がなされた(図7)。

そして、筆者が矯正治療の重要性と歯ぎしりの最新の知見について、息抜きを含めた分かり易いようであるが、矯正歯科の立場からみた外科的矯正治療へと話を繋げ、バトンを受け取った前田先生が、これらについて数多くの臨床治験例を提示するとともに、紅一点の知性に満ち溢れた輝きが、多くの受講生と教授を惹きつけ、予定していた時間をはるかに超えることとなったが、時間の経過を忘れるほど、おおいに講演会場は盛り上がりを示していた。

トリを務めていただいた杉原教授が、口腔外科の立



図8

場から、とても分かり易くかつ今後の臨床に役立つ外科的矯正治療に関する格調高い講演を行い、多岐にわたるテーマを盛り込んだ今回の公開講座を盛大に締めくくった(図8)。その後、修了証書授与式があり、閉会となった(図9)。

翌日、公開講座に出席して頂いた県立大島病院歯科口腔外科部長の大崎雅義先生のご配慮により、病院総務課の方に、大島病院について、全ての診療科の施設や研修医の控え室などを含め隅々まで案内して頂き、奄美大島の基幹病院である大島病院の現状を知ることが出来、極めて有意義な病院見学をさせて頂いた(図10-12)。

最後に、本公開講座開催にご尽力頂いた林文仁会長や学術理事の中村繁副会長をはじめ会員の先生方、歯科医師会の事務の有元さんならびに大島病院の大崎雅義先生に、この誌面をお借りして感謝申し上げます。



図9

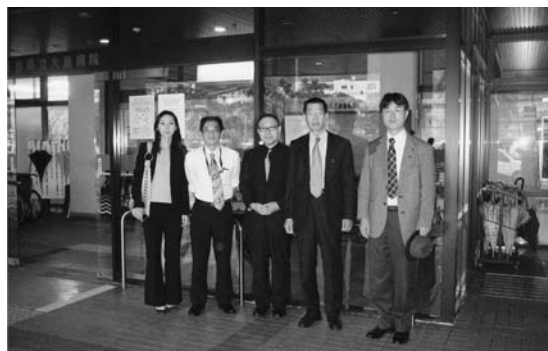


図10



図11



図12